

パブリックコメント実施結果

意見公募期間：平成26年2月17日～2月28日

意見提出者数：3人

意見への対応：以下のとおり

No.	提出された意見	協議会の考え方
1	実証運行している支線交通の中には、運行状況が悪いものもあると聞いている。赤字は税金で補てんするのだから、運行状況が悪い支線交通は運行を打ち切るべきではないか。	支線交通は、日常生活で移動が不便な地域において、地域の住民が主体となって検討し、実証運行しています。利用状況が悪いという理由で、実証運行を2、3年で打ち切ることには考えていません。しかしながら、財源が潤沢にあるわけではありませんので、利用状況が低迷したまま長期間実証運行を続けることもできません。 これまでは、地域住民と市が協働して支線交通を整備することを念頭に置いて取り組んでいましたので、実証運行の継続を判断する基準を設けていませんでしたが、ご意見のとおり、赤字は貴重な税金で補てんしますので、近いうちに基準を作成したいと考えています。
2	今年はいこいこいバスが運行を開始して5年を迎え、大竹市も市制60周年を迎える。10月26日は感謝を込めて、一日無料にしてはどうか。	ご提案ありがとうございます。お蔭様で、いこいこいバスの利用は順調に伸びており、平成25年度は、過去最高であった平成24年度の利用者数を越える見込みです。 ご提案の一日無料運行ですが、現在では1日平均の利用者数が約250人となっており、無料化により利用者が増えると、これまで利用していた人や、本当に利用したい人が利用できなくなることも考えられます。しかし、平成26年10月26日は一週間の中で最も利用者が少ない日曜日のため、無料運行について幹線交通検討分科会で検討したいと思います。
3	いこいこいバスのルートは、絶対に変更しないでほしい。	いこいこいバスのルートは、大竹駅と玖波駅間の公共施設や生活便利施設、医療機関を最短コース、最短の所要時間で運行することを前提条件として、幹線交通検討分科会で検討・決定しました。現時点では、いこいこいバスのルートを変更する予定はありません。
4	もっといこいこいバスの中に広告があればと思う。	平成24年4月から運行している新型車両に広告枠を設置し、平成25年5月から車内広告の募集を始めました。ご意見のとおり、広告の数が多くありませんので、市広報3月号で募集記事を掲載したところ です。貴重な事業収入ですので、今後も定期的に広告を募集したいと考えています。
5	これから子供から大人、高齢者に行き届いたサービス、利便性など、「市民にとっていこいこいバスはなくてはならない」と皆様から言われるように頑張っていたきたい。	ありがとうございます。 今後も、市民の皆様から愛されるバスになるよう幹線交通検討分科会の委員の皆様と一緒に、努力していきたいと考えています。
6	商工会議所と連携して、バス停付近のスーパーや商店などの特売情報を掲載したチラシを発行し、月1回くらいのペースで大竹駅などの主なバス停やバスの車内に設置するなどしてはどうか。 ある程度の商店を掲載することができれば、バス利用の目安になると思う。すべての曜日の特色が案内できれば、バスの利用が曜日で偏らなくなり、また、乗車率を上げることも可能になるのではないか。	ご意見の趣旨は理解できますが、地方自治体が特定の地域の商店の利用を促進するためにチラシを作成するのは、適切ではないと考えます。いこいこいバスには市の広告枠（B4サイズ2枚分）を設けており、市の行事のお知らせ等で活用していますが、今後、さらに活用したいと考えます。 なお、定時定路線型バスの支線交通である栄ぐるりんバスでは、地域住民が主体となって利用促進策を検討していますので、ご意見のようなチラシの作成が可能ではないかと考えます。